

次世代の SNS は「万能薬」か「麻薬」か

——ショートムービーや生配信を中心に——

羅 望達

本論文は、スマートフォンを基盤として急速に普及したショートムービーおよび生配信を中心とする「次世代 SNS」が、現代社会および個人に与えている影響について分析し、その二面性を「万能薬」と「麻薬」という視点から考察することが目的である。

まず、先行事例と統計データに基づき、TikTok（抖音）を代表とするショートムービープラットフォームおよびライブストリーミングの発展過程と普及メカニズムを整理した。その結果、スマートフォンの高性能化、通信インフラの高度化、アルゴリズムによる強力な推薦機能、さらに新型コロナといった外的要因が複合的に作用し、次世代 SNS が短期間で社会インフラ化したことが明らかとなった。

次に、世界最大規模の中国市場を中心とした事例分析を通じて、次世代 SNS の利用実態を個人・企業・公的機関という三つの主体別に検討した。個人レベルでは、情報収集、社会的接続、精神的安定、自己表現、経済活動への参加といった多様な機能を担う生活インフラとして定着していることが確認された。企業においては、ショートムービーと生配信を活用したマーケティングおよびライブコマースが、新たな経済モデルとして確立されつつある。一方、公的機関においては、政策広報や公共サービスの効率化を目的とした活用が進み、行政運営の手法にも変化が生じている。

以上の分析から、次世代 SNS は社会的・経済的有用性を高める「万能薬」としての側面が確認された一方で、過度な依存を招く「麻薬」としての側面も併せ持っている。その負の影響を「精神」「身体」「金銭」の三つの次元から詳細に検討した。精神的側面では、滞在時間が収益に直結する商業的構造下における承認欲求の暴走が、青少年の間に「拝金主義」や歪んだ価値観を蔓延させ、アルゴリズムによる「情報の繭」が社会の分断を助長している現状が明らかとなった。身体的側面では、ドーパミン報酬系を利用した中毒メカニズムや視覚機能への負荷に加え、動画内の危険行為を無批判に模倣することによる身体的損傷のリスクが確認された。金銭的側面では、判断力の未熟な未成年者による高額な投げ銭トラブルや、生成 AI 等の最新技術を悪用した高齢者への詐欺被害が拡大しており、家計や個人の資産を脅かしている。

これらの分析から、次世代 SNS のリスクは、特に社会的保護を必要とする「青少年」や「高齢者」に集中していることが判明した。現状の放置は、個人の心身の健康のみならず、社会全体の道徳的・経済的基盤を侵食する危険性を孕んでいる。本論文は、次世代 SNS を単なる娯楽メディアとしてではなく、現代社会を構成する重要な基盤として捉え直し、その光と影を多角的に理解する必要性を提示したものである。